

正誤表・更新情報

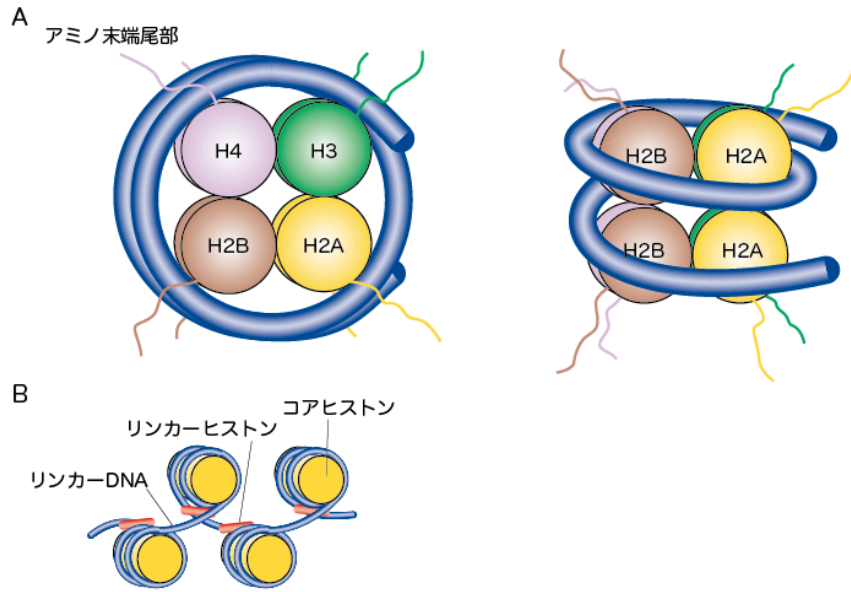
本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2018年10月24日）

■第3刷（2016年3月1日発行）～第4刷（2017年2月10日発行）の修正・更新箇所

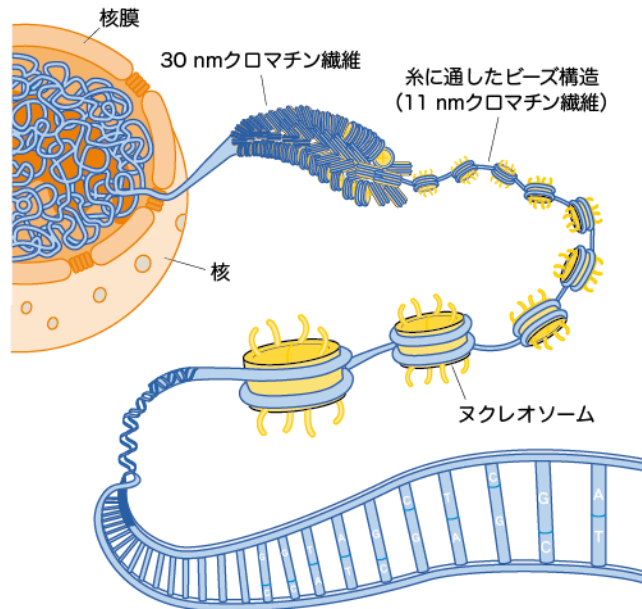
※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758120500_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
2章					
52	図2-10		DNA(紺)の巻き方向を逆(左巻き)にする。	※1参照	18/10/24
53	図2-11		一番手前(中央左)のヌクレオソームにDNAが下からではなく、上から巻きつくようにする。	※2参照	18/10/24
13章					
234	10～16行	<p>…③膜電位が元の静止電位から活動電位へと変化する。その結果、④ジヒドロピリジン受容体(電位依存性のカルシウムチャネル)のチャネルが開いて、それまで低く保たれていた細胞質のCa²⁺濃度が上昇する。</p> <p>筋肉には筋小胞体という袋状の膜構造が存在しており、ふだんはその中にCa²⁺が蓄えられている。しかし細胞質のCa²⁺濃度が上がり始めると、⑤筋小胞体膜上のリアノジン受容体(リガンド依存性のカルシウムチャネル)がそれに応じてチャネルを開き、蓄えられたCa²⁺を放出する(図13-11A)。これをカルシウム誘発性カルシウム放出とよび、カルシウムシグナルを増幅する働きがある。その結果、細胞内のCa²⁺濃度は急上昇し、…</p>	<p>…③膜電位が元の静止電位から活動電位へと変化する。この活動電位は、④細胞膜上の電位依存性カルシウムチャネルであるジヒドロピリジン受容体の活性化を介して、筋小胞体膜上のリアノジン受容体の活性化を導く。筋肉には筋小胞体という袋状の膜構造が存在しており、ふだんはその中にCa²⁺が蓄えられている。しかし筋小胞体膜上に存在するリガンド依存性カルシウムチャネルであるリアノジン受容体が活性化されると、⑤蓄えられたCa²⁺が細胞質へ放出される(図13-11A)。その結果、細胞内のCa²⁺濃度は急上昇し、…</p>	少量のCa ²⁺ 流入を介することなくジヒドロピリジン受容体とリアノジン受容体が直接相互作用するモデルの記載に修正。	18/10/24
235	図13-11A		「③活動電位の発生」以降の図をp234本文修正に合わせた図にする。	※3参照	18/10/24

※1



※2



※3

